

勝林奇奇報

また世界経済繁栄の結果としての地球規模の汚染が、これからの経済・産業のありかた、私達のくらしのありかたに警鐘を鳴らしはじめた一年でもありました。そのなかにあって勝林寺も、その規模は小さくとも、一つの転機をむかえた年であつたように思います。

まず、昭和56年から教化活動の中軸としての『勝林寺寺報』を毎月発行し続けてまいりました。その土寸切报社が百口呂方をむかえて、ご門徒の間にほぼ定着したように思われます。この間、応援激励して下さったご門徒のみなさまのおかげです。そしてなお嬉しいことは、近年、寺・門徒のワクを越えて広く読んでもいただけるようになつていていることです。

反面、百号に至った今、ややマンネリ化したきらいがあります。これをどう打開して、これから百号をどのように開き出すか、その工夫をみんなでしなければなりません。

1980年代最後の年、そして天皇陛下として最長であった「昭和」が終わり、「平成」という代替わりのあつた年が昨年でありました。

1990(平成2)年のねがいと
1989(平成元)年の回顧

1989(平成元)年度
宗教法人「勝林寺」

歳計決算書（案）

【収入の部】

項目	予算額	決算額	比較増減
繰越金	72,100	72,100	0
経常實収入	1969,000	1974,000	5,000
雜收入	45,000	39,000	△6,000
計	2086,100	2085,100	△1,000

【支出の部】

公課金	400.000	408.987	◇8.987
法要費	460.000	507.400	◇47.400
両坡岸報恩代盆会追悼法要	100.000 230.000 130.000 0	105.500 263.800 138.100 0	05.500 033.800 08.100 0
経常費	204.180	211.280	◇7.100
火災保険	24.180	24.280	0.100
会議費	65.000	65.000	0
香華灯明	40.000	40.000	0
光熱費	75.000	82.000	07.000
營繕費	300.000	321.860	◇21.860
交際費	20.000	20.000	0
教養費	52.000	55.220	◇3.220
文化費	535.000	464.822	70.178
伝道費	380.000	339.522	040.478
助成費	100.000	100.000	0
記念品費	25.000	25.300	0300
事務通信費	76.000	82.660	◇6.660
予備費	38.920	0	38.922
合計	2086.100	2072.229	13.871

仏壯・仏婦の組織は、歴代の役員のご苦労によつて、勝林寺の活動のなかに確立されました。平成元年度においては坊守の入院のこともありますが、行事の上では抑制したこともありました。が、たとえば戦没者追悼法要など新たな活動エネルギーを示していただいております。ただ、出石組御同朋総結集大会において仏壯連盟会長の指摘された「なんのための組織か」ということは、いま嚴肅に受け止め考へてみなければならない問題点だと思われます。第一に聞法。そのうえで今、仏壯仏婦のなすべきことは何かをみんなで考え運動して行かねばならないとおもいます。

平成元年度は、明るい寺としての出発の年であつたと思います。初式が数多くおこなわれ、仏前結婚式も挙げられました。また、勝林寺掲示板の支部が増えました。葬儀・法事だけにつながる暗い寺のイメージが変えられたこと

敬老報恩講として、従来つづけてきた高齢者に対する教化対策が、ますます重要になってきました。みんなでこの問題への具体的な取組を考えてゆかねばなりません。

寺の施設設備はご門徒永年の努力と懇志により整備されてまいりました。本堂内部の莊嚴はほぼ完備されました。

しかし、境内地全体からみると未整備の箇所がいくつもあります。特に最近、勝林寺周辺地域の町並計画が進められるなかで、放置できないという声も出てまいりました。

本堂の縁の天井の補修と、境内地総合整備計画（参詣者用トイレの完備、高堀の改修、庫裏玄関周辺の改装、ガレージ設備など）です。そのための工事・経理



1990(平成元)年度

代議員會

2月11日
午前9時半

(この議案により各地区ご相談の上ご出席下さい)

守族のことについても大きな変化がありました。坊守が家庭療養させていただけでありますし、住職も外への活動を抑制しなければならなくなつて参りました。次第に次の世代への期待がつよくなつて参ります。しかし在米修学中の後継住職は博士号取得に今しばらくあります。さいわい次男が春から但東町の「けやき荘」勤務となり帰郷してくれます。寺の仕事に直接関わってくれることはありませんが、地域の高齢者養護のことにつなぎわることは寺族として嬉しいことだとうけれどもあります。

会計について

勝林寺の運営は二つの会計によつて経理されます。表ページの甘利一本財産△会計は、院号などの冥加金、永代経の懇志などの特別寄付金を積み立てて形成された会計です。

その積み立て金の現況は表ページの報告表の通りです。

1989(平成1)年度		基本財産報告書
収入の部		
被起業金	9520, 065	前年度より繰り入れ
実力口金	900, 000	下記
利 差	279, 083	
合 计	10699, 148	*
支出の部		
動物更生共済掛金	294, 228	
出石農協へ	198, 152	
但東町農協へ	96, 076	
合 计	294, 228	
差引残高	10404, 920	
定期預金	10000, 000	但馬銀行 20000, 000 但馬信用金庫 20000, 000
普通預金	404, 920	出石農協 30000, 000 但東町農協 30000, 000

歳計予算書（案）

【収入の内訳】			
項目	前年度予算額	今年度予算額	比較増減
総額 超過 金	72,100	12,871	-59,229
総額 手取り又入	1969,000	1983,000	14,000
総額 収入	45,000	30,000	-15,000
計上	2086,100	2025,871	-60,229

【支出の部】			
公 費	400,000	410,000	10,000
法 皇 報 告	460,000	490,000	30,000
両 僕 岸	100,000	100,000	0
報 感 講	230,000	230,000	0
永 代 税	130,000	130,000	0
益 金 退 様 施 計	0	30,000	30,000
系 保 事 業	204,180	210,000	5,820
火 災 保 険	24,180	24,280	100
会 報 費	65,000	70,000	5,000
香 置 灯 明	40,000	40,000	0
光 熱 費	75,000	75,120	720
基 本 時 間	300,000	150,000	-150,000
交 通 費	20,000	20,000	0
学 教 費	52,000	56,000	4,000
学 教 イ ピ 費	535,000	545,000	10,000
伝 道 費	380,000	390,000	10,000
助 成 費	100,000	10,000	0
紀 念 品 費	25,000	25,000	0
印 刷 通 信 費	76,000	83,000	7,000
手 附 費	38,920	61,871	22,951
合 計	2086,100	2025,871	60,229

支出のなかで【公課金】というものは本山・教区・組などから寺および門徒にかかるつてくる賦課金です。前年は出石組御同朋総結集大会の分担金も加わつてきました。今年は教区のそれがありますので同じ程度の支出を予想しなければなりません。【法要費】はそれぞれの年次法要の際の講師や出勤法事へのご法札や、参詣ご門徒へのお斎、それに本堂の莊嚴費が主なものです。追悼法事を今年からは経常行事としてお勤めさせていただきたいと思います。【當縉費】を今年度十五万円に落としたのは、表ページに述べた境内地総合整備計画をにらんでのことです。

経常費会計の主な原資は経常費収入であります。奴社當中費用△五計の前年度決算報告書と今年度の予算案とを表示しました。

す。【教化費】のうち伝道費について、その主なものは『真宗』（年五回発行）やカレンダー、それから『勝林寺寺報』の発行費ですが、その送料については今年度の予算からはずしました。【予備費】を昨年より増額しましたのは、今年度あるいは会議などの臨時出費があるかもしれませんと予想するからです。

今年度の行事の予定があらましを下に

行事計画

二月	【正月】	勝林寺開山記念会
三月	【二月】	『勝林寺寺報』発行会
四月	【三月】	春彼岸会
五月	【四月】	出石組念佛奉仕団代議員会
六月	【五月】	仏壯理事会・総会
七月	【六月】	佛婦評議員会
八月	【七月】	研修旅行
九月	【八月】	出石組連合仏婦総会
十月	【九月】	永代経・仏婦総会
十一月	【十月】	盂蘭盆会追悼法要
十二月	【十一月】	盆まいり
一月	【十二月】	秋彼岸会
二月	【一月】	別修敬老報恩講
三月	【二月】	教区御同朋総結集大会
四月	【三月】	報恩講
五月	【四月】	玉日会定例
六月	【五月】	十六夜会定例
七月	【六月】	みのりを聞く会